

2020年1月16日

センクシア株式会社

従来の耐震補強に替わる無溶接方杖補強工法 「スマートアタッチ工法®」の建設技術審査証明を取得

センクシア株式会社（本社：東京都港区、代表執行役 執行役社長：笠原 伸泰）は、一般財団法人日本建築センターにて、無溶接方杖補強工法「スマートアタッチ工法®」の建設技術審査証明（※1）を取得しました。今後さらに鉄骨造耐震補強システムの商品拡充をはかり、同システム全体で2022年度12億円の売上を目指します。

■建設技術審査証明取得

一般財団法人日本建築センターにて「建設技術審査証明(建築技術)」を2019年12月2日付で取得しました。(BCJ-審査証明-259)

※1 建設技術審査証明

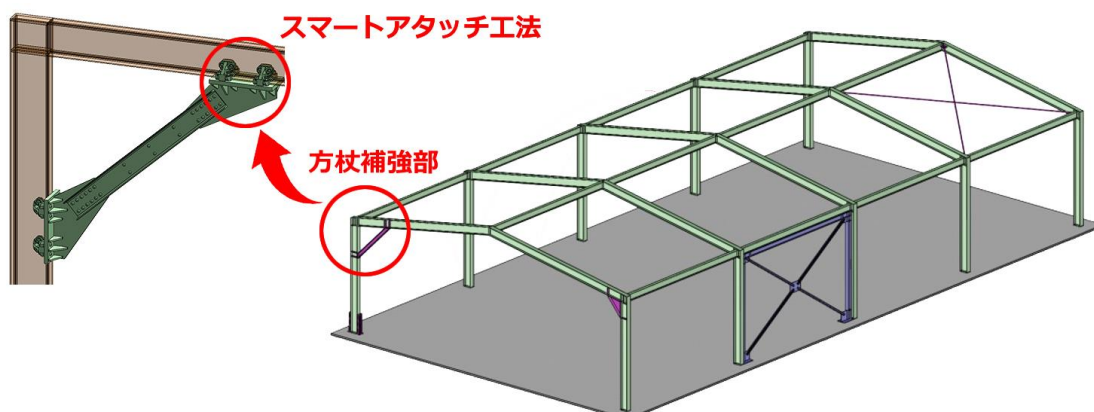
新しい建設技術の活用促進に寄与することを目的として、民間において自主的に研究・開発された新技術について、第三者機関(建設技術審査証明協議会各会員)が、依頼者の申請に基づき新技術の技術内容を学識経験者等により技術審査し、その内容を客観的に証明するもの。

■「スマートアタッチ工法®」開発の背景

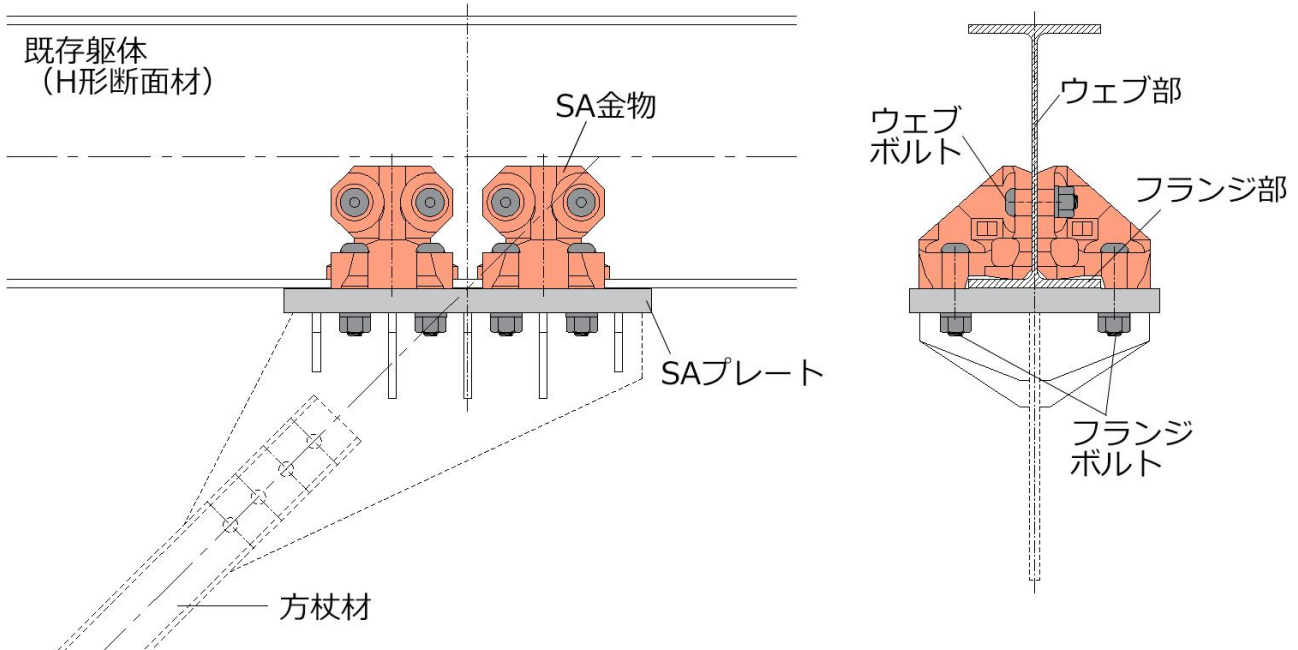
工場や倉庫など既存鉄骨造建築物の耐震補強工事では、建物に補強部材を取り付ける際に、溶接する方法が一般的です。しかし溶接工事は、工事中的火災リスクを伴うため、火気を使用しない簡易的な接合方法が求められています。そこで当社は無溶接かつ簡易的な接合が可能な「スマートアタッチ工法」を開発しました。

■「スマートアタッチ工法®」の構成

スマートアタッチ工法は、鉄骨造耐震補強における方杖補強端部の無溶接接合工法です。既存躯体（H形断面材柱及びはり）に独自形状のSA金物、SAプレート、高力ボルトを用いて接合します。



H形断面材ウェブ部に取り付けられたSA金物と方杖材端部のSAプレートにてフランジ部を挟み込み高力ボルトで固定することで、フランジ部へのボルト孔の開孔が不要となりました。



■ 「スマートアタッチ工法®」の特長

(1) 現場溶接作業が不要

火災リスクを低減。火気養生を最小限に抑制可能。

(2) 居ながら施工が可能

ボルト接合により施工の簡易化を実現。大がかりな作業用足場の設置無しで取り付けることができ、建物を使用しながら方杖補強工事が可能。

(3) フランジ部へのボルト孔開け不要

フランジ部へのボルト孔開けが不要なため、フランジ部の断面欠損が無く、H形断面材の断面性能低下が小さい。

(4) 作業工数低減、工期短縮が可能

無溶接化による火気養生範囲縮小、製造ライン・設備等の盛替え低減、居ながら施工の実現等により、工数削減・工期短縮に寄与。

